

店舗のカメラ設置標準例と制服警備について講演

日本万引防止システム協会がウェビナー開催

工業会 日本万引防止システム協会 (JEAS、稲巡回・接遇) に関するウェビナーを開催した。小売業「店舗のカメラ設置標準例」や防犯関係者ら約 60 名が参加した。



JEAS のウェビナーの様子

この 2 年、間大量窃盗を含む万引犯罪の件数が増加へと転じている。その対策として、ネットワーカメラの急速な技術進化や AI 技術の発達など新たなソリューションが生まれてい

1 月の NRF (米国小売業協会) のイベントでは、小売店を 5 つのエリアに分けた防犯ポイントを設定し管理する手法が発表された。それらの最新情報に警備上の管理ポイントの手法を加えた総合的な店舗のロス削減と防犯対策について、各専門分野の職業専門家から説明した。

「店舗のカメラ設置標準例」と題して、森川真次 JEAS 監事、豊田孝志 JEAS プロジェクトリーダーが講演した。「推奨ネットワークカメラ標準の提案」を中心に「JEAS 推奨ネットワークカメラ標準の目的は、世界進出を狙う小売業に対する標準的なネットワークカメラと利用目的を明確にする必要がでてき

用」を説明した。これは、2024 年 NRF (米国小売業協会) イベントで提唱された防犯目的のネットワークカメラ設置に対するコンセプト。2025 年 1 月 NRF 主催イベントでは別カメラメーカーも訴求を開始した。小売店を 5 つのエリアに分けた防犯ポイントを定義し管理するもので、5 つとは公共エリア・駐車場・出入口・売場・バックヤードを含む。レジエリアである。

次にネットワークカメラの種類を説明。①パレット型②ドーム型③モジュラー型④PTZ 型⑤装着型 (ウェアラブル) の 5 つであり、JEAS 推奨ネットワークカメラ 5 つについて「JEAS からの必須事項は『出荷時の設定のままにしておかない、カメラのルーターのファームウェアを常時最新バージョンにする』である。このほか個人情報を守るためのネットワークカメラ必要事項」を説明した。さらに、DOR

I モデルを紹介した。これは、国際的 IP カメラ画質基準のことで、検知、観察、認識、識別の頭文字から命名している。

◇ 続いて「店舗の制服警備 (立哨・巡回・接遇)」と題して、山根久和 JEAS 副会長、青柳秀夫 JEAS プロジェクトリーダーが講演した。

「制服店内保安警備」導入事例と「制服・私服警備」配置、「私服店内保安警備」の効果的な活用方法、警備業と業務区分の再確認と契約について、「警備業と業務区分」の再確認について述べた後、「犯罪発生要因」と防止対策について言及した。「セルフサービス方式」の弱点は①動機・欲しい商品がある、手に取れない②機会・人が見えない、盗れる③正當化・沢山商品がある、1 つ位分らない。【万引被害者 1050 人】への調査結果では①店舗スタッフの接客で約 680 人が牽制でき